

---

# よろず屋に変人！?(・o・)

莓リズム

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

よろず屋に変人！？（・o・）

### 【Nコード】

N2955Y

### 【作者名】

莓リズム

### 【あらすじ】

暇？な大阪の学生が書いてる小説だす（＾o＾）  
少しぐろい場面あり 戦闘シーンのときのみ

## 第一訓 プロローグ（前書き）

初めまして！（＾o＾）

投稿できない日があり週1っていう可能性大有りなんで  
覚悟！？を！！

## 第一訓 プロローグ

20年ほど前

うちの隣の家に坂田銀時っていうやつがおった髪はその名の通り銀髪でも目がなんちゅうの・・・死んでる

しかも偶然に偶然・・・おんなじ寺子屋通ってた

いわゆるおさなじみ

歳も同じ

んでうちの容姿が・・・

髪はキレイな琥珀色

前髪は7：3分け      ー ー ー      こんなの感じ

ちなみに普段は髪をNARUTOの綱手みたいにしてる  
知らない人は検索してみよう！  
目は緑

まつ毛長くてくっつくっく

身長165cm

服は袖のないミニ着物

下がひざ上10cmやねん

もち、黒スパッツ着用ー（七分丈）

靴はブーツ

体は・・・まあよくスタイルいっていわれる・・・

で今そいつはどうしてん？？

っていうとよろず屋っていういわゆる何でも屋を開いてる

まあ・・・少し前に戦いがあってみなさん知ってるあのメンバーで戦った

うちは女っていう理由で戦いは参加できへんかった

悔しかった

先生殺されたのに

でも、銀時は

「めんどくせけど、お前の分まで頑張ってやんよ」

って言ってくれた

うちそれでまあ、納得？したんやけど・・・

でそのよろず屋・・・手伝うことにした

まあ・・・あれ・・・うちの分まで頑張ってくれたお礼やな

で、しばらくして新八や神楽が入ってきた

つーことで、銀時、うち、新八、神楽でよろず屋の始まりや!!



## 第一訓 プロローグ（後書き）

感想とかがくれたらうれしいです

## 第二訓 よろず屋（前書き）

はい！先週一話書いただけであと全部書いてないアホ一名です！  
よろしく

じゃあ本題へレッツゴー！

## 第二訓 よろず屋

あるよろず屋に朝六時という、早い時間帯によろず屋から大声が聞こえるのは  
いつものこととなっている

あー！申し遅れたんやけどうちの名前は、りんどう ゆめか竜堂夢叶といっねん！  
よろしくな！！

「夢叶！！今日の朝ごはん何アルカ！？？またよろず屋じゃあ稼ぎ  
足りなくてこの家賃  
払うためにまたなんかバイト増やしたアルカ！？？」

「神楽まず朝はおはよう。そして顔洗って服は着替える！！洗濯物  
コインラ ドリーに持っていくから  
ご飯今日は和食！バイトはいつものことやから！！」

はい。そうです

ただでさえ家賃払うので精いっぱいなのに、神楽は大食いで生活費が毎月ピンチやねん・・・

だからよろず屋以外に、コンビニのバイトしたりしてんねん！

夢叶は神楽同様よろず屋が家です

このよろず屋には洗濯機とのがないねん！！

ほんま意味分からん！

「あー・・・夢叶・・・俺の分の味噌汁確保しといて」

「銀時ご飯は全部確保しとる！！お前も着替えて飯食わんかい！！  
いらんやったら全部うち食うからな！！」

神楽はもう着替えてお行儀よくイスに座っている

「いやあ夢叶・・・いつもすまないねえ・・・家賃とか掃除とか洗濯とかご飯とか！」

「もうそれ耳にタコできとるほど聞いとる！っーか悪い思うんやったら少しはお前もバイトしろ！！」

あんたの当番ゴミ捨てとジャンプ買いに行くだけやし！！なんで社長のお前が何もせえへんねん  
おらぁ！！！！」

ちなみにうちは女いつてなめたらあかんし！！  
いつも帯には短剣入れてるし、怪力だつて結構自信あるで！！

「まあまあ、夢叶さん落ち着いてください。銀さん夢叶さんの言うとおりですよ。  
働く気がないんだつたら夢叶さんの掃除のひとつお手伝いしたらどうですか？？」

「ええこと言うやんだメガネ。」

「何がダメガネだああ！！！！！」

「新八！！ご飯につばが跳ぶアル・・・汚いからやめろ」

「跳ぶの字って違くない！？ねえ違うんじゃない！？？」

「いつとくけどあたしは夢叶のお手伝いしてアルヨ。買い物の手伝いとか」

「「嘘！？？」」

銀時と新八が声をそろえて言った



「いや、ほんまやから」

「おい・・・俺見たことねえぞ・・・」

「僕ですよ！銀さん！！」

「まあ、それはいいとして・・・」

「いいのかよー！！」

「もう話めちゃくちゃですよ・・・銀さん。」

「台本ガンスルーだな。」

「えっと・・・次なんだっけ・・・ちら・・・ああ！！そうそう今日はめずらしく依頼人が来るよ」

「棒読みじゃないですか！！それにあきらかに今”ちら”って台本見ましたよね！？？」

「細かいことはどうでもいいんだよ。ダメガネ」

「だから、ダメガネ言っな！！銀さんあんたどっちの味方なんです

ピンポーン

か！？？  
「」

「あ！インターホンなってる・・・夢叶みてこーい・・・」

「はいはい・・・」

バ  
タ  
ン

・  
・  
・  
・  
・

「  
は  
ー  
い  
・  
・  
・  
・  
・  
」

が  
ら  
！



## 第二訓 よろず屋（後書き）

P  
S

銀「つて終わり方半端だなおい!!」

神「銀ちゃん、しょうがないある作者はめんどいからこつするアルよ?」

新「なんで疑問なんですか・・・」

夢「はい!次へ続きまーす」

新「当たり前だろーが!!これで次回違う始まり方だったら完ぺきおかしいだろ!!」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2955y/>

---

よろず屋に変人！?(・o・)

2011年11月17日19時02分発行